

公表:令和 7年 3月 18日

事業所名 ZENIBAKO Brave

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○			活動ごとにスペースを確保している。	
	②	職員の配置数は適切であるか	○				児童定員に対し配置数は適切である。現在、利用者状況をみながら職員体制を検討中である。
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	○			静的活動と、動的活動ができる部屋を区別し、活動内容を分かりやすく配置している。	
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	○			必要時に応じ部屋の配置の変更等を行っている。	
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか		○		日々の会議で、情報共有、振り返り等を行い職員が参画している。	PDCAサイクルには基づいていないため、今後必要に応じて行っていく。
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○			保護者の方からいただいたご意見を周知し、改善すべきところは取り入れている。	
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○			ホームページに公開している。	
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか			○		必要に応じて取り組んでいく。
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか		○		資質向上を行うため、各々必要なことは調べ、職員間で共有している。	職員の資質向上のため、必要に応じ、内部研修や、外部研を検討していく。
適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	○				
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○				
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	○				
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	○			課題や目標を意識し、個々にあった支援を心掛けている。	

	⑭ 活動プログラムの立案をチームで行っているか		○			職員の数により、今後活動プログラムを組んでいく。	
	⑮ 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか		○		個々を尊重し、自由活動をプログラムとしている。	自由活動の中でも、固定化しないように、日々色んな遊びを提供する必要がある。	
	⑯ 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成しているか	○			個々に合わせた児童発達支援計画を作成している。 個々を尊重し、自由活動の中で、個別と集団の活		
	⑰ 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○			支援開始前の時間を確保し毎日必ず行っている。		
	⑱ 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか		○		LINEを活用し、その日に合ったことなどを共有している。詳しくは、翌日の支援開始前の会議で振り返り等を行っている。		
	⑲ 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○					
	⑳ 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	○					
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	㉑ 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○					
	㉒ 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	○					
	㉓ (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障がい福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか					非該当	
	㉔ (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか					非該当	
	㉕ 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○				情報提供を求められた際は資料を作成したり、日々送迎の際に情報共有を行っている。	
	㉖ 移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○				情報提供を求められた際は資料を作成したり、日々送迎の際に情報共有を行っている。	
	㉗ 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか			○		利用者の担当者と連携し情報共有を行っている。	
	㉘ 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか				○		必要に応じ検討していく。

	②9 (自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか			○		必要に応じ検討していく。	
	③0 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○			送迎時やLINEを活用し、子どもの状況などを共有し、共通理解を持てるように行っている。		
	③1 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っているか		○		プログラムはないが、送迎時等に情報共有を行い助言等を行っている。		
保護者への説明責任等	③2 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○					
	③3 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	○					
	③4 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○				必要に応じ、助言や支援を行っている。	
	③5 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	○				年1回開催している。父母の会を計画してきたが集まることが困難な状況。期間を設けたり、内容を改める必要がある。	
	③6 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○				相談・苦情等受付担当者および責任者設置している。相談や申入れは迅速に対応している。	
	③7 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○				前期、後期でお便りを発行している。必要に応じ都度LINE等で発信している。	
	③8 個人情報の取扱いに十分注意しているか	○					
	③9 障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○				電話や直接話すことが苦手な保護者もいるため、LINEを活用し気軽に連絡できるように配慮している。	
	④0 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか			○			必要に応じて検討していく。
	非常時等の対応	④1 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	○				訓練内容や訓練中の様子など保護者にも周知している。
④2 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか		○				定期的に目的に合わせて避難訓練を行っている。	
④3 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか		○					

④④	食物アレルギーのある子どもについて、示書に基づく対応がされているか 医師の指示に基づく対応がされているか	○				
④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○			日々の会議の中で共有を行っている。	
④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○				
④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	○				

◎ この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。